



歲  
華  
帖

027
118
2

027
110
2



寛政十一年試筆

大字人のおれりばうきく  
 作かあまらあすなりき

あまら

仕丁のあつ  
 松柳

松くさ

狭あらんり

節りの

あつ

歳旦

天下万民の新年

君う代やまのふに我れ我れあくる利

芭蕉

沖中乃呼の鳥たわくくゝあ

宗暎

手此飛らうと羽のあゝ色魚はめ

寸五

足と下ゝ連てゝゝあも謡即

左柳

定らぬあは長くゝ乃 鞆 菫 可那

文之

茶賣此書ハ茶湯の音たゝ

柳

あせらせゆううけあゝ老乃 禪

菴俊

けりまゝと世相をまきのこゝあ

筆也

あせと空こりうく此 柳 若木

大葉

除え及まき魚

冷川之堂

縁もとり京乃あゝもまゝしれん

柳水

あけあのをりぬ他法もりくの春

全

鷄也清代あゝうゝゝと鮫比事

地目

何とぞあつらん富たふ睡月可那

浦井

今年控の雪又て年の夏とあつ

全

板初をし朝ふ不起て飛小蝶

庵畑

小机めてふのあまのちむらぎ

蒲重

全

柿部

八九首

ハシ〜子也君とハふ代乃今朝とぞ

冷池

一紙也ゆか紙の跡まうか

全

道の阻乃事よそ〜ゆかのをあ

全

五首

一丁田

午睡草

節淡也〜人の石乃この草

宇奈

ふ〜〜〜むふ逆つ〜りのけめ

全

春興

熊岳連

沙門

宇をのひもやまふのま乃猪圃か

連珠

猿曳た羽織鏡はれまむ白さか

雪牛

音をよよ田邊に流す。柳の

野末

川哉乃其也のこも又神可申

鷹之

るり此の心の糸をやれよかぬ

寄風

里川の小船さうはく瓶のこぶ

其象

題桃木

山田古雅堂印

桃の花町飛ハくやをり年一也

之徳

笑て心をたより 炭徳

帙口

柳の心おとれた音踏と日かぬ

藤操

つくれふや山の籠とりの花

嵐洲

まら真

北勢玉垣

空をわたる石ころ虫か飛ぶはな

孔阜

西島

長峰耕作連

空しあは梅うさ家八十可月

浮江

柳の心おとれた音踏と日かぬ

和永

糸香丸 桂子もよほせよ〜の母

桂子

四玉丸の赤き道ふ〜の日の丸

里丸

拍子也 桂丸赤の智り 初まよこ

芦苗

四五日丸 赤の道ふ〜也まよこ

桂子

月香也まよこ此は足丸〜乃坂

芦苗

几ヶあけ 親子も扱母〜の年の香

里丸

わ〜若也枕乃よあ〜乃坂

浮江

桂町又赤丸の道ふ〜大にすの

糸丸

春興 全

うめ丸赤丸 烟し〜の道ふ〜

一の星

鶯り〜雪掃すつ糸戸口ア糸

糸丸

夕 山夜雨声連

あ〜魚又さ〜文の便り哉

聖海

浅川也 歌一赤の夕〜

送席

茶のはらばら草り一目よ風舞

全略

風ふくむ音成見せしう初の色

若石

すくも花さくく風梅の二月か砂

大一房

々

全神風館

手ふくまら乃織うけ織七草のふ

寸又

音ゆてまふこくく柳可耶

糸石

海をれ游りて雨を晴しり季

境子

全

今交雨赤色

花より道のとしめやえ茶葉

古葉

春風色澄々晴以り小音 回

枝子

のくくお野の葉樹尔音法小音

梅籠

月七ふきり船ハ亦此葉セ夕暮

更船

全

全藤庵

卯午也人れおふり己ふみしり

卯石

傘さして道を通る人の影

不朽

ぬくはちかぬもさぬを道不汰

己暮

全

比林新中

植る影北を風森くせ道盲乃而

林車

可や枝の澄糸幕やまの山松云

鳥海

全

細津

云り海小島うらひや中も小

地力

まづ脚のさくくま其れみ

矢石

々

山田

春城北羽根りこりぬそ

里立

老可橋るみ其れめくそ大たあ

葉池

全

全

もろも白のハそそぬ梅れゆ身

子殺

其る乃こゆをこけきあひるを

石人



全

川崎太古庵中

春柳をくさくさはるの形西下那 左涯

川まじり毛柳乃ハ花を削つた人 月山

川隈や否かーゆけをまの村 碧洲

春をよれそこハ砂地乃やぬまのまふ 雙浦

人の百とゆり新く此小鮎ヶ浦 春湖

浮舟のり層家ふーいめまを 可笑

軽川や取乃さささくは浮舟 菊芝

まのいそ日あく又中をまのま 急庭

籠子れたつ掃糸のかも毛あまはあ 淡洲

去年乃春糸雪の  
あを思ひてす 夏州 保永

乃このまの伊勢乃後を力ん地せり 羨敬

まら真

まら也果ーらまは流のまは上座 全

全

和州歌書前口

梅可也愛ハ鳥から見てり  
東枝唐

たし水鳥又もつて海ヤ一のなる  
角茂

々

山田ちりし唐

枯尾志おとハシてまあまを乃の  
丘高

ソつた了れ白まててておれま  
四渡

まの山深きもね又見もなり  
風丘

春乃也後湖のいろや  
後水

々

堀小川連

柳より台のこゝろ家とと魚一の那  
双南

うく飛すれ賢も羽たえ此卯音以  
不鳥

今朝のれまをばくもや袖もり  
枕白

とれ雨の赤糸晴茂なりつ  
色将

雪丸はほぬもさゆよ風のあひ  
相葉

全

山田梅月居士

庭に水くはるし、八音りり、まきの電

之逸

音乃、羽此、ち、是、帝、初、春、此、雪、乃、上

素戸

は、あ、の、雪、吹、ま、を、お、ま、あ、ふ、さ、の、中、ふ

不、及

其、れ、雪、降、り、ぬ、も、く、松、乃、風

世、仄

不、属、定、ま、ま、の、哉

さ、る、羽、毛、又、初、ら、け、見、家、道、と、よ、所

東、陽

系、り、也、と、し

城、は、ま、と、三、ら、く、陸、月、乃、積、雪

叙、深

音、乃、の、か、く、ら、又、あ、あ、ま、ま、白、う、さ

幹、負

一、と、も、不、日、け、き、し、氣、れ、神、可、所

大、黄

そ、の、の、み、點、つ、ふ、こ、せ、の、も、あ、り

箏、毛

此、乃、乃、を、所、の、あ、り、の、哉

藤、渡

枝、々、毎、座、の、鬼、つ、れ、様、の、邪

左、柳

行く来て空の鳥の羽は宇空の花

山崎月一 燈又つる 指まき直

影は厚也松より 其わ 籠 月

春のや 矢背へ 手島北 宿まき直

向東へ うれ 飛を やして 言のふ

全

成妙時集大間

案々 春の 枝葉を 不そり 柳 けい

文 鳥

寸 玉

李 破

芭 蕉

胡 桃

杉 夕

除 元

百松舎中

春のつ せし 斗 壺 空の つとく けい

宵に 宵の 鳥の 不 不 不 人 通 けい

管に 水 水 水 の よ 十 鈴 川

世の 言 母 此 不 不 不 不 不 けい

逢 尾

記 方 の 人 形 お う 也 けい 拂

夫 舎

全

亦 海

全

左 旅

新雪の乃 沁入り埋め庭の雪  
 静かな海に師を此 注ぎの浦  
 静し夕より 涼へ入きては暮らぬ 貴  
 夢をたてて春のこゝろ也 除却の夜  
 明かたふやと乃 杉中 礼 妙免  
 海欄也 虫よけの巾着ぬし ぬきぬき  
 百姓也 虫よけの巾着ぬし ぬきぬき

前編  
 李侯  
 寸至  
 文亭  
 産後  
 乙卯也  
 大筆

古き香と巻しつゝあらず  
 あつらひし比磨成りし

寒も盡せししに

つふふ新 鐘乃乃

麻糸

元日此 立巻 二 乃 申

しつゝの巻

里乃乃子言ふわらふ事ゆ成  
 又礼色

乃 立 乃 乃

祝の巻

辻 放下



